

## 令和元年度「市長と語り合う会」について

### 1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和元年 8月5日（月）	真砂公民館	19:00～20:00	10	0	10

#### ○市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

### 2 会の概要

#### ○ 開 会 （秘書課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

#### ○ あいさつと市政運営の説明（山本市長）

本年度の施政方針における基本方針は「連携の充実と発信」である。「連携」をキーワードとして3年目となる中、その中身を充実させ、効果的に発信していくこととしている。連携の進め方として着目している点を説明する。

##### ・SDGs（持続可能な開発目標）に着目

2015年国連サミットで採択されたもので、2030年までに全世界一緒になって達成すべき目標とされる。17のゴールの中には日本においては既に達成されているものや、市政に馴染まないものもあるが、幅広く大事な意味を持つものもある。様々な相手との連携のための共通の物差しとして、国際的な視野を持ちながら地域課題を見つめ直すことも重要である。市の各事業が17の目標のどれに該当するかを意識しながら進めている。

##### ・萩・石見空港の利活用

空港は重要な交通インフラである。東京線は平成26年から現在の1日2往復の便が復活したが、首都圏との行き来が比較的スムーズにできるのもこのおかげである。うち1便は国の発着枠政策コンテストにより得たものであり、何度かの期間更新を経て、今年度末でいったん終了する。その後は未定であり、継続のための実績をしっかりと作らなくてはならない。また夏季限定運航の大阪線についても、ANAに対し粘り強く運航機会の拡大を訴えていく。

##### ・ひとづくりと人材確保

「総合戦略」の中で施策を行なう人材の育成・確保が重要という観点から、ひとづくり重視という方針を打ち出し、「ひとづくり協働構想」も策定し取り組んできた。未来の担い手、しごとの担い手、地域づくりの担い手の育成を一体的に行い、若者が地元に着住してもらおうと地域に愛着を深めてもらう取り組みを実施してきた。真砂地区でも地域とのかかわりを持ってもらう事業を実施していただいております、モデルケースといえる。文部科学省からの視察を受けるなど注目されていることから、市の発信材料としていきたい。

#### ○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 市道整備について
- ② 防災無線について
- ③ 地域包括ケアシステムについて
- ④ 市長の給料について
- ⑤ 県道益田澄川線について
- ⑥ 交通対策について
- ⑦ 空港と東京線の維持について
- ⑧ 地域づくりについて

- ⑨ ひとづくりと人材確保について
- ⑩ 区単位での災害警告について
- ⑪ 高等看護学校について

○ 閉 会 （秘書課長）

## 令和元年度「市長と語り合う会」

〔会場 真砂公民館〕 開催日時：令和元年8月5日（月）19:00～20:00

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 市道整備について 久々茂柿原線の整備のペースが少し落ちたように感じる。1日も早い開通を願っているのでよろしくお願ひしたい。</p>	<p>① 永年お待たせをしている。少しずつでも早く進捗できるように努力していく。</p>
<p>② 防災無線について 馬谷に拡声器の施設がない。アナウンスが無理ならサイレンでもいいので、設置を検討してほしい。</p>	<p>② 市内全体的に施設が老朽化して、今後どうするかが大きな問題である。丸ごと更新すると数億円の費用が掛かる。負担の少ない設備や国の補助等を如何に活用するか等検討している。サイレンの件も含め検討していく。</p>
<p>③ 地域包括ケアシステムについて 厚労省から、介護予防の一環として各地域の住民主体で行う取り組みの先進事例（ポイント制度＝インセンティブを活用したサロン事業等）を紹介・奨励していくとの発表があった。市としてもそうした事業に積極的に取り組んでほしい。</p>	<p>③ ケアシステムにはハードや人材の確保も重要だが、仰るような地域ごとの日ごろの取り組みも重要である。益田市ではポイント制などは未実施だが、そうした事業への参加割合は低くないと自負している。健康づくりについて他自治体の視察を受けることも多い。しかしさらなる活動の充実を目指して、検討・改善を重ねていきたい。</p>
<p>④ 市長の給料について 県内市長の中で一番低い。相応の給料を得て、市の先頭に立つ仕事をしてほしい。</p>	<p>④ 市財政が厳しいため、様々な事業を抑制・先送りしている中で、職階に応じて職員も減額していた（現在は管理職以上）。本来仰る通りすべきで、財政事情が改善すれば考えたい。</p>
<p>⑤ 県道益田澄川線について 澄川までのトンネル工事に数十年かかるという見通しである。迅速に進めてほしい。</p>	<p>⑤ 完成部分において市内への行き来はかなり改善したと思う。道路整備など、県に対し様々な要望を行っており、どれを優先させるかは精査が必要。現状ではグリーンライン90のうち匹見線に進んでいない部分、吉賀町への路線などを強く要望している。こうした路線との兼ね合いの中で検討していきたい。</p>
<p>⑥ 交通対策について SDGsの中に「住み続けられるまち」とあるが、真砂はじめ中山間地域は交通弱者が多く、バス運行も十分な対応になっていない。このままでは住めなくなり地域が崩壊すると思う。石見交通が走っているところに買物支援バスが走れない問題もある。</p>	<p>⑥ 深刻な問題と考えている。中山間地の交通対策は十分ではなく、一方で必要な経費は年々増えている。利用者の減少という悪循環もあり改善が難しい。県にも要望を行っている。買物支援バスは地域の厚意により存続しており、有り難い。石見交通との協議は行っているが、法律上の限界がある。</p>
<p>⑦ 空港と東京線の維持について 空港建設の際に県で用地買収に携わり、人間関係の重要性を感じた。今後の増便等の陳情に力を入れてほしい。</p>	<p>⑦ 県とともに国交省に対し、地方空港の維持について常々お願いしている。ANAに対しても同様。2便維持はもちろん、もし3便となればさらに利便性が増すので、そのためにも利用客の増加に取り組んでいきたい。</p>
<p>⑧ 地域づくりについて 堺屋太一の「三度目の日本」に学んで地域づくりを行ってほしい。</p>	<p>⑧ 同じく堺屋氏の「平成三十年」を読んだが、現在の少子高齢化、地方行政の破綻など相当前から予想しておられた。厳しい時代の中で</p>

<p>⑨ ひとづくりと人材確保について 現在の様々な取り組みにおいてどんな未来を目指しているのか。</p> <p>⑩ 地区単位での災害警告について ハザードマップの説明会で、国の5段階の警告中、4からは自治体が発信すると。市として雨量などの目安があるかと質問したら、特にないとの答えだった。市内でも地区により降り方のばらつきがあることがあり、全体を網羅するのは難しいと思う。公民館単位で注意を促すなどの対応策を検討しているのか。</p> <p>⑪ 高等看護学校について せっかく益田市に石見高看があるのに、市内の高校卒業生がなかなか入れない。普通科の卒業生が多いが、明誠高や東高の学校推薦でもはじかれてしまう。東部出身者は益田市に定着しない。市長推薦というものを聞いたことがあるが、こうしたものの拡充は考えられないのか。</p>	<p>いかに地域が生き残るか、住民の皆さんと一緒に考えていきたい。</p> <p>⑨ 一番の目的は、地域で育った子供が地域に残る・帰ってくることに。子供の進路として益田をもっと意識してもらいたい。市内に能力発揮の場ややりがい、住みやすさなどを感じてもらい、多様な人材を得て地域の魅力化が進むことである。これはさらに市外からの関係人口増加にも繋がると思う。</p> <p>⑩ 災害発生時の市の大きな責任は、対応準備や避難勧告のタイミングや対象地区の適切な把握に関することである。避難所開設の際は人的配置、食料や情報の提供も重要である。气象台や河川国道事務所、県と連携し現況や予測を適切に行っていく。5段階のレベルについてもこうした連携のもとに行っていく。</p> <p>⑪ 石見高看の入学率はもっとあるが達していないと聞いている。当然入学には一定の水準が必要なので、そこに達する学生を十分に確保できていないということだと思う。地域推薦は10年ほど前から始めて、年次にもよるが3～7名程度行っている。この卒業生は最低1回は市内の医療機関に就職している。この制度を大いに利用していただきたい。またこの仕事の魅力について石見高看でも発信している。地域医療推進室でも医師確保と合わせて人材拡充に取り組んでいる。</p>
--	--